

資料館 だより



目次▶

1

…収蔵資料展

2

…事業報告

3

…事業予定・博物館実習

4

…報告・開館カレンダー

収蔵資料展「ミシン」

開催期間：10月14日（土曜日）～12月10日（日曜日）

ミシンは、英語の
ソーイング マシン
sewing machine の
machine が転訛した
名称です。

ミシンの発明は、1755年、イギリスで特許を取得されたことにはじまり、その後フランス、アメリカで開発が進みます。そして1850年、I.M.シンガーが今日のミシンの基本的構造を備えたミシンを発明し、シンガー社を設立しました。

日本のミシンの歴史は、1854（安政元）年、ペリーが2

度目に来航した際、第13代将軍徳川家定夫人にミシンを献上したという記録が最古とされています。一般には明治期以降、普及し、国産品の製造は、1921（大正10）年創業のパイン裁縫機械製作所（現 蛇の目ミシン工業）やミシンの修理業を営む安井ミシン商会（現

ブラザー工業）が製造に着手し始め、国産ミシンの生産台数は次第に増加していきました。

郷土資料館では、前身の恵庭市郷土資料室（昭和50～平成2年開設）の時代より収集してきました資料の



▲明治から大正時代のミシン

中からミシンを展示します。かつてはどこの家にもあったミシン。昭和期の暮しを支え、大活躍した家庭用足踏みミシンを中心にご紹介しますのでぜひご覧ください。

※現在、ミシンの寄贈受入は行っておりません。



▲昭和初期のミシン

- 7月** ●2日…アイヌ文化マスター育成事業（第1回） ●8日…カリンバ土曜講座（第2回）
●22日…第10回カリンバまつり ●22日～8月27日…企画展「明珍鉄工所展」
- 8月** ●1日～24日…戦争資料展 ●5日～6日…アイヌ文化マスター育成事業（第2回）
●5日…漁川の生きもの観察会 ●19日…粘土で土鈴づくり
- 9月** ●2日…カリンバ土曜講座（第3回） ●3日…アイヌ文化マスター育成事業（第3回）
●16日～18日…企画展「特別公開2023 カリンバ遺跡重要文化財漆塗り装身具」
●16日…黒曜石でストラップづくり ●30日…カリンバ講演会

第10回カリンバまつり ～君も縄文人になろう～

7月22日(土)に郷土資料館の研修室で10回目となるカリンバまつりを行いました。

午前の「土器作り体験」には子供から大人まで8名の方が参加しました。様々な形に作られた土器は8月19日(土)に資料館の裏庭で土器焼きを行いました。



▲まが玉作り体験の様子

午後の「まが玉作り体験」には小学生を中心に15名の方が参加。石はとても柔らかい滑石という石を使い、3種類のサンドペーパーで三日月の形に削りました。

参加していただいた皆様、ありがとうございました。



企画展「特別公開2023 カリンバ遺跡重要文化財漆塗り装身具」

カリンバ遺跡重要文化財の漆製品は、通常保存のため郷土資料館で複製品(レプリカ)を展示

しています。今年は9月16日(土)～9月18日(月)の3日間、牧場にある埋蔵文化財整理室で年に1度の実物の特別公開を行いました。昨年までの3年間は新型コロナウイルスのため開催できなかったことから4年ぶりの開催となり、91名の方が市内外から詰め掛けました。ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。



▲展示の様子

ものづくりシリーズ

郷土資料館ボランティアの会共催事業

講師：郷土資料館ボランティアの会 那須登志子さん

粘土で土鈴づくり

8月19日(土)土鈴づくり作業
9月23日(土)焼き上げ作業

大昔の遺跡から発見されることもある土製の鈴づくりに、小学生6人を含む15人の参加者が挑戦しました。

まず、土の粘土で直径5センチほどの玉を作り、半分に割って、中を削り抜きます。中に



▲土鈴づくりの様子 郷土資料館

敷地内で採集した小石を2個入れ、思い思いの形に成形して鈴を形づくりました。



▲焼き上げの様子

約1ヵ月間乾燥。その後、焼き上げ作業を行って、完成させました。

黒曜石でストラップづくり

9月16日(土)

黒曜石は、大昔の石器の材料としてよく知られています。研磨したその黒曜石の破片にガラス工芸用のダイヤモンドペンで好



▲ストラップづくりの様子

きな図柄を描き、周りに麻縄で編んだ紐をつけてストラップに仕上げました。黒曜石は固く、何度も同じところを描かなければならないところが難しかったようです。午前午後合わせて23人の参加者が奮闘しました。



完成したストラップ▲

- 10月 ●7～9日…昔の道具体験コーナー
- 14日～12月10日…収蔵資料展「ミシン」
- 21日～22日…アイヌ文化マスター育成事業（第4回）

11月 ●12日…アイヌ文化マスター育成事業（第5回）

12月 ●10日…アイヌ文化マスター育成事業（第6回）

第1回アイヌ文化講演会

11月12日(日)の14時から15時半に、文化庁の内田調査官による講演会「松浦武四郎が記した幕末の恵庭」を恵庭市民会館の大会議室で行います。北海道の名付け親である探検家松浦武四郎は1846年に千歳川を上って、1858年には陸路を通して恵

庭を訪れており、またアイヌ民族の生命と文化を守るために力を尽くしました。対象は小学4年生以上で、先着100名。無料で、参加申し込みは不要です。皆様のご参加をお待ちしております。



◀松浦武四郎肖像写真（松浦武四郎記念館所蔵）



松浦武四郎が描いた「島松」▲（松浦武四郎記念館所蔵）

昔の道具体験

秋休みの機会に昔の道具体験コーナーを設置します。

唐箕^{とうみ}、竿ばかり、石臼、機械式計算機など自由に触ることができます。

なお、コロナ前に常設していた「火おこし」(火はおきません)、「電話」、「木製魚釣り」を再び常設いたします。



火おこし体験の様子▶

令和5年度 博物館実習



大学で博物館学芸員資格取得を目指して学ぶ博物館学芸員課程履修者3名が当館で博物館実習を行いました。8

月22日～9月5日までの実働10日間(又は5日間)、資料の虫干し、遺跡発掘調査現場見学と作業体験、小企画展の企

画立案・資料の選定・展示作業に至るまでを体験し、一連の作業に取り組みました。

小企画展の様子





▲開会式の様子

今回私は、東アジア文化遺産保存国際シンポジウムの実行委員として参加したのでその報告をします。東アジア文化遺産保存国際シンポジウムは、日本、中国、韓国、モンゴルなど東アジアに属する国々の学芸員や研究者が集い、研究報告などをする会です。今回は初めて北海道で開催され、メイン会場である北海道大学では様々な研究報告がされました。こ

のシンポジウムは文化財の保存に関する内容ですので、紙、金属、石など多種多様な文化財が扱われています。例えば、中国の壁画に関する研究や、日本の沈没船の保存処理に関するものなどです。最近ではCTを使用して、文化財の内部を調べて製作方法を解明するといった研究が盛んにおこなわれています。

皆さんも一度は訪れたことがある博物館の展示資料は、こういった最先端の研究報告からヒントを得

て保存管理されています。もし博物館、もちろん恵庭市郷土資料館でも構いません、行く機会があればこの話を思いだしながら見てください。今までとは違う視点、疑問がわいてくるかもしれません。



▲キウス周提墓見学の様子



郷土資料館 開館カレンダー



10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

- 毎週月曜日が**休**館日です。
…▶ただし、月曜日が休日の場合、**開館日**です。その場合、振替となり火曜日、水曜日が**休**館日となります。
- 休日は**開館日**とし、翌日が**休**館日になります。
…▶ただし、土曜日、日曜日にあたる場合は、**開館日**です。
- 毎月最終金曜日は、資料整理のため**休**館日となります。
…▶ただし、最終金曜日が休日にあたる場合は、前日が**休**館日になります。
- 年末、年始の**休**館日は、12月28日～1月3日です。

休館日の詳細



編集後記

デジタル資料の展示に使用していたパソコンのディスプレイが急に壊れてなにも映らなくなってしまいました。いつかは壊れるものですが、今年の異常に暑く長い夏が致命傷になったのかもしれません。(よ)

資料館だより No.63 2023年10月1日発行

発行 恵庭市郷土資料館 住所 〒061-1375 恵庭市南島松157-2 TEL/FAX 0123-37-1288

開館時間 午前9時30分～午後5時 入館料 無料